

# 2024年3月卒者(大学・大学院卒) 「新卒者採用に関する進捗調査」 集計結果報告

公益財団法人就職支援財団が、県内企業の2024年3月卒業予定の新卒者(大学・大学院卒)採用活動の12月時点での状況について調査しました。

## 調査の趣旨

この調査は、静岡県内企業における新卒採用活動の現時点での進捗状況を収集し、企業・学校・学生へタイムリーに情報を展開することで、今年度の企業の採用活動、学生の就職活動への対応策提言の資料としていくものです。

## 調査要領

### ■調査対象

静岡県内企業の経営者もしくは人事担当者

従業員数: 49名以下26.7%、50～99名26.5%、100～299名25.4%、300名以上21.3%

業種: 製造業30.3%、建設業12.1%、卸売・小売業17.5%、サービス業35.2%、その他4.9%

### ■調査期間

2023年12月8日～2024年1月10日

### ■調査方法

2023年8月実施「新卒者採用に関する進捗調査」の調査票送付先及び、新卒媒体やイベント等で新卒者を募集している企業から1,200社を抽出。調査依頼文を郵送し、WEBサイトにてアンケート回答

### ■有効回答数

389サンプル (有効回答率 32.4%)

※集計は、調査対象のプロフィール以外、非該当・不明を除いて実施。また、小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

<調査に関する問い合わせ先>

公益財団法人 就職支援財団

担当: 鈴木

TEL 054-271-3111

【総括】	3P
【調査結果】	
Ⅰ. 2024年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況	4P
Ⅱ. 採用活動終了企業の活動実績	5P
Ⅲ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較	6P
Ⅳ. 2024年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動総括	7P
Ⅴ. インターンシップの実施状況	8P
Ⅵ. 次年度の新卒採用活動	9P

### ＜今年度採用活動の概況＞

全般的に採用環境は厳しさを増しているが、特に卸売・小売業は厳しさを増しているようだ。

- ①8月の調査に引き続き、採用活動を継続している企業の割合は増加している(図表1、2)
- ②採用プロセスにおいては、応募者数の減少傾向が顕著になってきている(図表7)。内定辞退があった企業(図表10)、内定辞退者数(図表11)ともに前年よりも増加傾向にあり、厳しさが増している。
- ③卸売・小売業は昨年よりも厳しさが増している。採用活動を継続している企業の割合は6割を超え(図表3)、当年度の採用活動の印象では「大変厳しくなった」割合が5割を超えている(図表15)。全国的に求人倍率が高く、人手不足が深刻になっている様子が見える。
- ④全般的に厳しい状況ではあるが、昨年よりも採用人数が増えた企業の割合が増加しており(図表13)、一部で2極化傾向が見られる。採用人数が増えた企業は、その他の企業よりもインターンシップの実施率、採用におけるオンラインの活用率が高いことは確認しておきたい。

### ＜インターンシップの概況＞

コロナの5類移行によりインターンシップ実施率が増加しているが、その影響により学生の参加者数は減少している。

- ①実施率は、2020年の調査以来5割を上回った(図表18)。
- ②一方、インターンシップに参加した学生数が「減った」企業の割合は全体の4割を超えた(図表20)。インターンシップの実施企業が増えたことで、参加学生が分散していると思われる。
- ③インターンシップ実施企業のうち、今年度内定を出した学生の中に自社のインターンシップに参加している学生の割合は6割を超え、増加傾向が続いている(図表21)。採用環境が厳しさを増している卸売・小売業はインターンシップ参加学生がいる企業の割合が昨年よりも3割減少しており(図表22)、実施内容等の改善が必要だと考える。

### ＜次年度の新卒採用活動について＞

今年度よりもさらに厳しい環境になることが予想される。インターンシップ等の内容を充実させること、新たな取組みにチャレンジする必要がある。

全国的に採用意欲は低下することはないが、ますます新卒採用の難易度はあがりそうだ。厳しい状況下において、昨年よりも採用人数が増えた企業の割合が増加していることは注目すべき点である。採用が増えた企業は、他の企業よりもインターンシップ実施率が高い、採用におけるオンライン活用率が高い傾向にあるので参考にしたい。ただ、今後はインターンシップ等の実施率は上がることで参加学生の確保が困難になり、さらにインターンシップ等に参加した学生が入社する割合も企業によって差ができることが予想される。現在インターンシップ等の参加学生が減少している企業、インターンシップ等から入社する学生数が減少している企業は、インターンシップ等の告知、実施内容を変える必要がある。また、新卒者を確保するために話題になっている取組みについては、全体的に着手が進んでいないようだ(図表17)。自社にあった取組みを選択する必要があるが、他の企業に先立って新たな取組みにチャレンジすることで、採用環境を改善する余地はあるのではないかと考える。

※総括及び調査結果のTOPICSのコメントにある“前年”とは、“前年同時期”の調査となります。

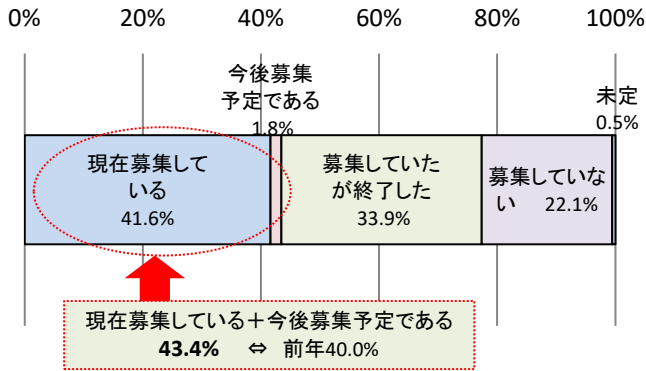
# 【調査結果】

## I. 2024年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動実施状況

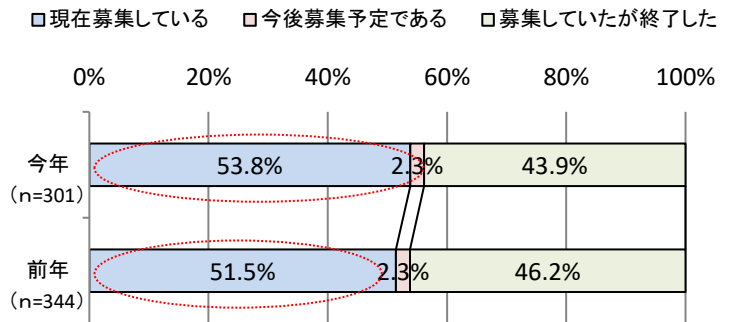
### <TOPICS>

- 採用活動を継続している、あるいは募集予定のある企業は全体の43%と前年を3ポイント上回っている(図表1)。採用意向のある企業に絞ると、56%の企業が採用活動を継続している(図表2)。業種別では卸売・小売業の継続率が他の業種に比べて高く、前年を11ポイント上回っている(図表3)。
- 採用活動を継続している企業で採用計画の充足を見込んでいるのは、全体の15%となっている(図表4)。

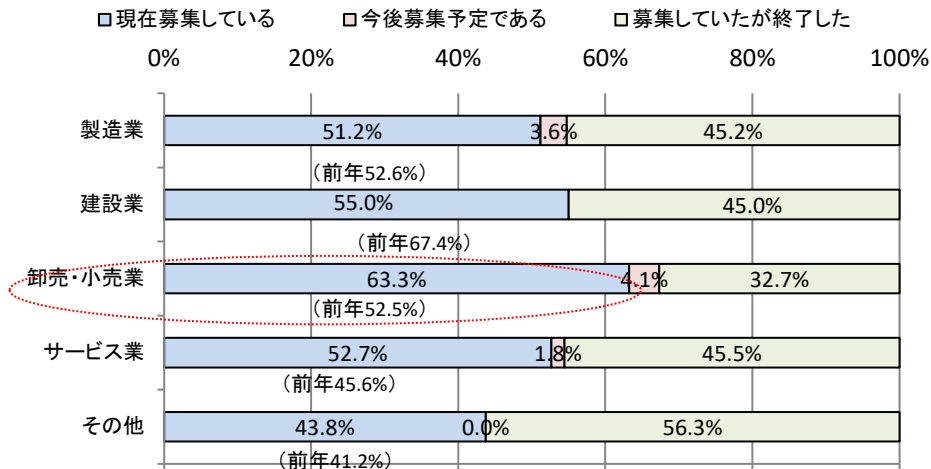
(図表1) 2024年3月卒者の採用募集状況 (n=389)



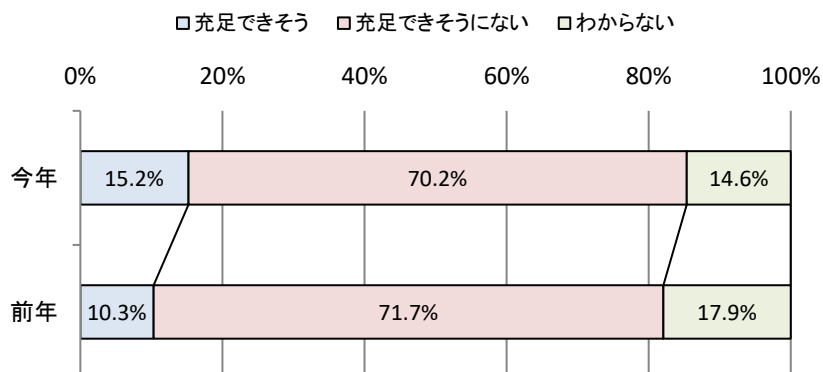
(図表2) 採用意向のある企業の活動継続率



(図表3) 業種別: 採用意向のある企業の活動継続率



(図表4) 採用を継続している企業の新卒採用計画充足見込 (n=171)

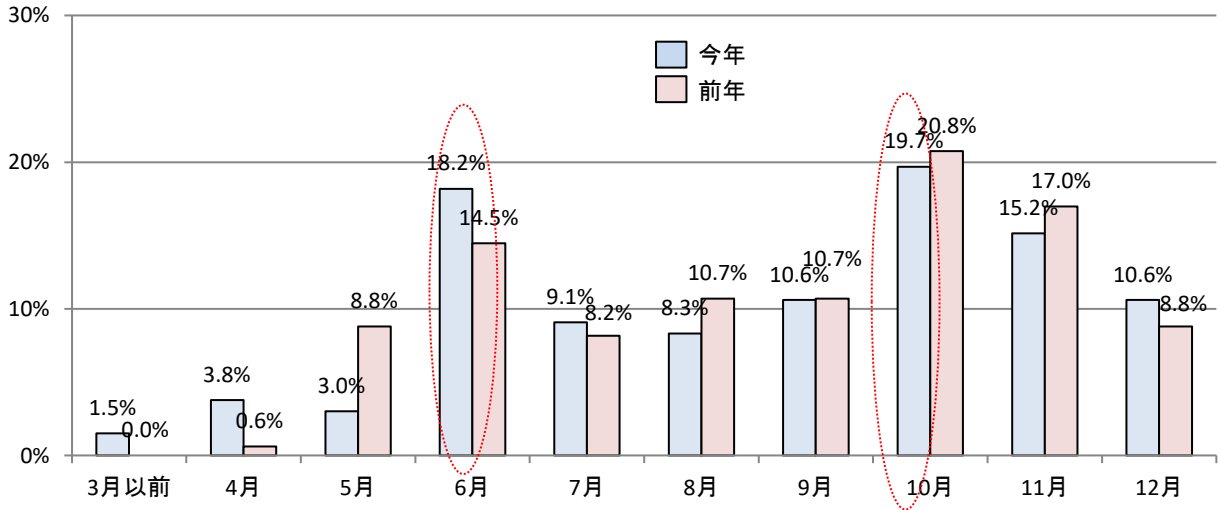


## II. 採用活動終了企業の活動実績

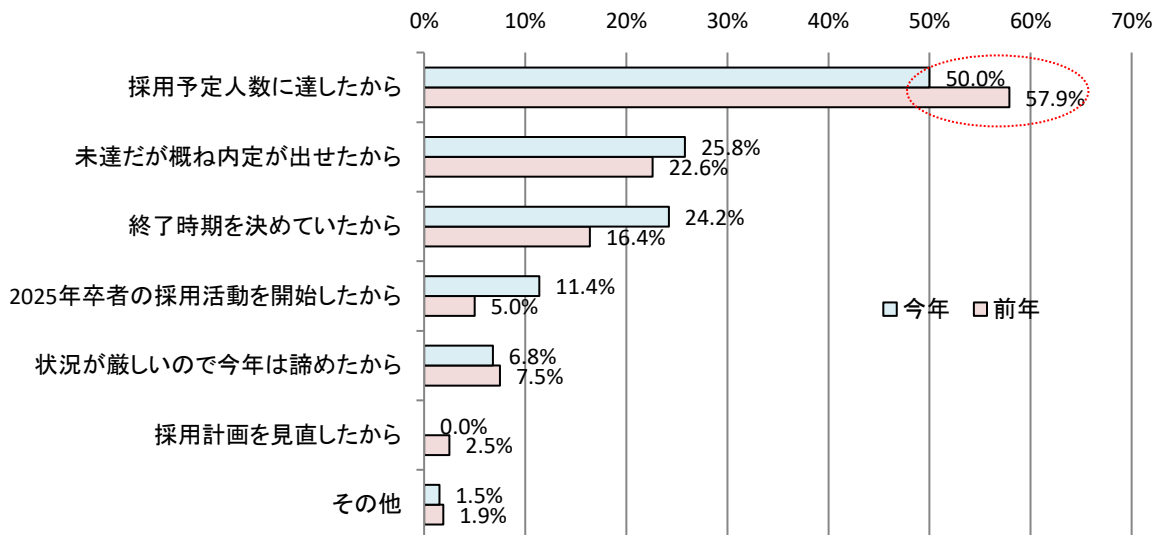
### <TOPICS>

- 採用活動の終了時期は「10月」が最も多く、2番目が「6月」となっている。「10月」は前年より1ポイント低下し、「6月」は前年より4ポイント上回っている(図表5)。
- 採用活動を終了した理由は、「採用予定人数に達したから」が50%と最も多くが、前年を8ポイント下回っている。2番目に多いのは「未達だが概ね内定が出せたから」で前年を3ポイントを上回っている(図表6)。

(図表5) 採用活動を終了した時期(今年n=132、前年n=159)



(図表6) 採用活動を終了した理由(n=132、複数回答)

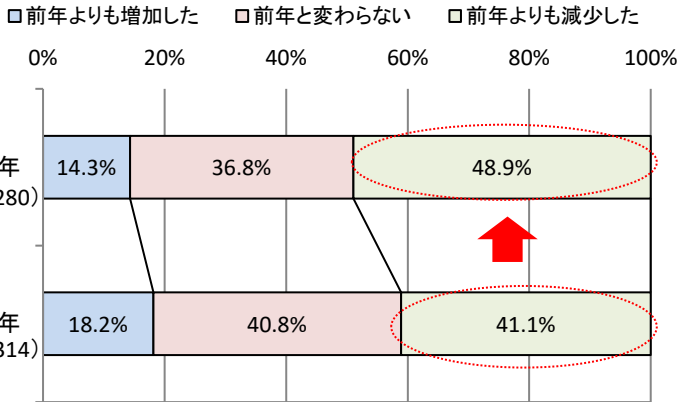


### Ⅲ. 選考プロセスにおける状況の前年度比較

#### <TOPICS>

- ・応募者数は「前年よりも減少した」企業の割合が49%と最も多く、前年よりも8ポイント増加している(図表7)。全ての従業員規模の会社で「前年よりも減少した」企業の割合が最も高くなっている(図表8)。
- ・県外学生の応募者数は「前年と変わらない」企業の割合が5割を超えている。「前年よりも減少した」企業の割合は34%で、前年数値を2ポイント上回っている(図表9)。
- ・内定辞退のあった企業は64%で、前年よりも5ポイント上回っている(図表10)。
- ・前年度と比較した内定辞退者数は「変わらない」企業が41%と最も多いが、前年調査を11ポイント下回っている。「前年よりも増加した」企業の割合は41%で、前年よりも9ポイント上回っている(図表11)。
- ・内定式を実施した企業で内定式後に内定辞退のあった企業の割合は17%で、前年を5ポイント上回っている(図表12)。

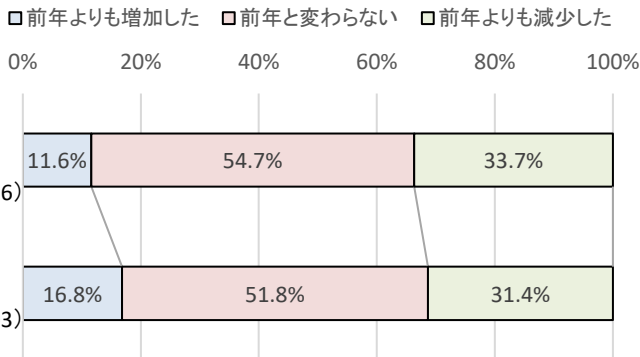
(図表7) 応募者数の前年度との比較



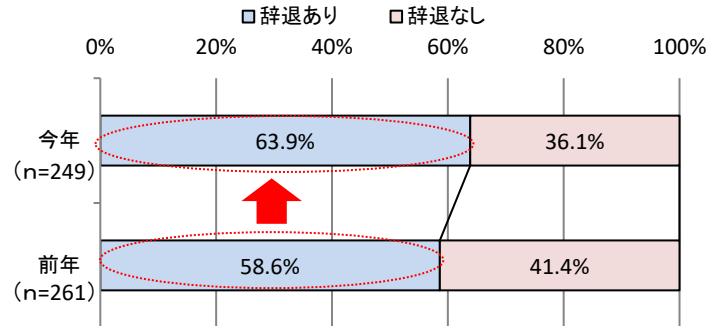
(図表8) 従業員規模別: 応募者数の前年度との比較

	前年よりも増加した	前年と変わらない	前年よりも減少した
49人以下	11.6%	37.2%	44.2%
50~99人	12.0%	36.1%	49.2%
100~299人	13.9%	31.9%	47.2%
300人以上	18.9%	34.0%	45.3%

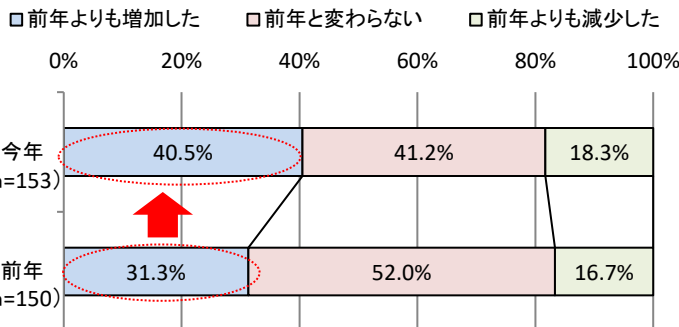
(図表9) 県外学生の応募者数の前年度との比較



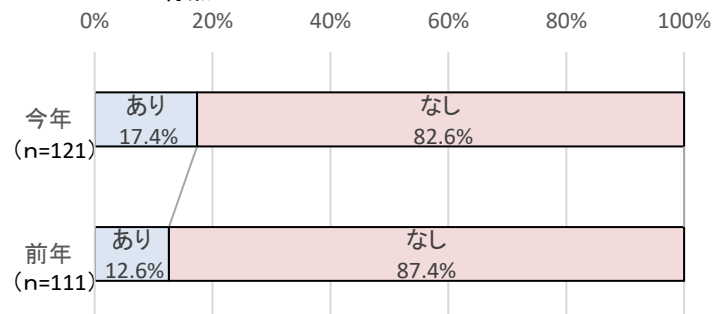
(図表10) 内定辞退の有無の前年度との比較



(図表11) 内定辞退者数の前年度との比較



(図表12) 内定式実施企業における内定式後の内定辞退の有無

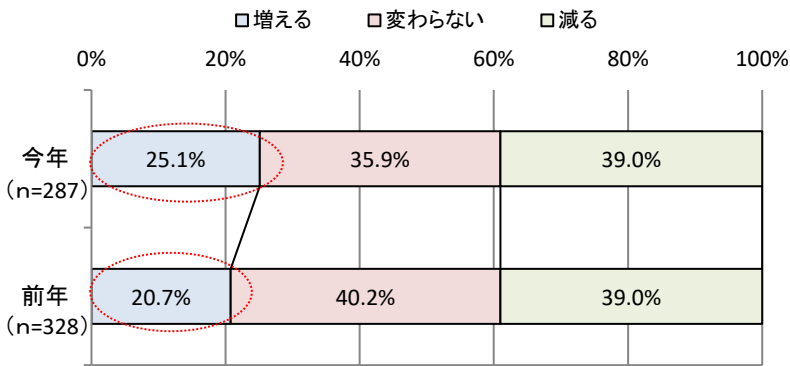


#### IV. 2024年3月卒者(大学・大学院卒)の採用活動総括

##### <TOPICS>

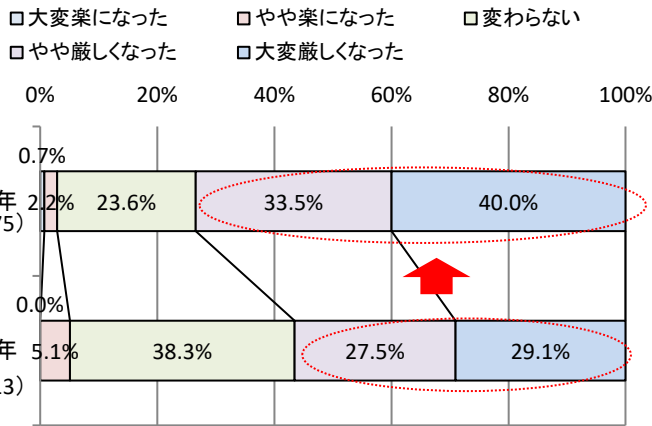
- ・前年よりも採用人数が「増える」と回答した企業が前年よりも4ポイント上回っている。採用人数が増える企業は、それ以外の企業よりもインターンシップ実施率、採用でのオンライン活用率が高くなっている(図表13)。
- ・今年度の新卒採用活動の印象を「やや厳しくなった」「大変厳しくなった」とした企業の割合は74%で、前年を17ポイント上回っている(図表14)。「卸売・小売業」は「大変厳しくなった」と感じている企業の割合が5割を超えている(図表15)。
- ・オンラインの活用企業の割合は、全体の65%で前年を5ポイント上回っている(図表16)。
- ・新卒採用活動において最近話題となっている取組みの実施状況は、「初任給の引き上げ」が42%と最も多くなっている。その他は3割台、もしくはそれ以下となっている(図表17)。

(図表13)前年と比較した新卒採用人数



<インターンシップ実施率>	
採用人数が増える企業	80.6%
それ以外の企業	68.2%
<採用でのオンライン活用率>	
採用人数が増える企業	71.8%
それ以外の企業	62.3%

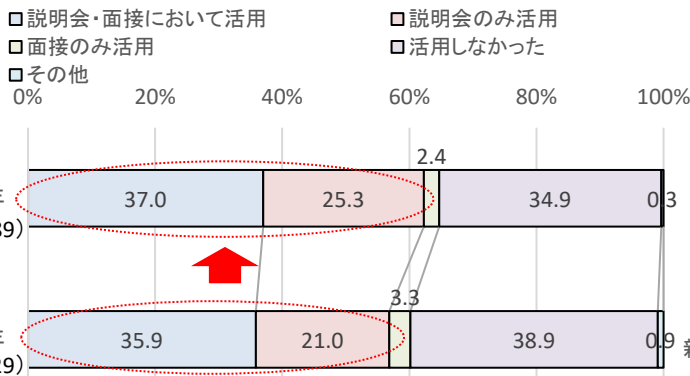
(図表14)当年度の新卒採用活動の印象



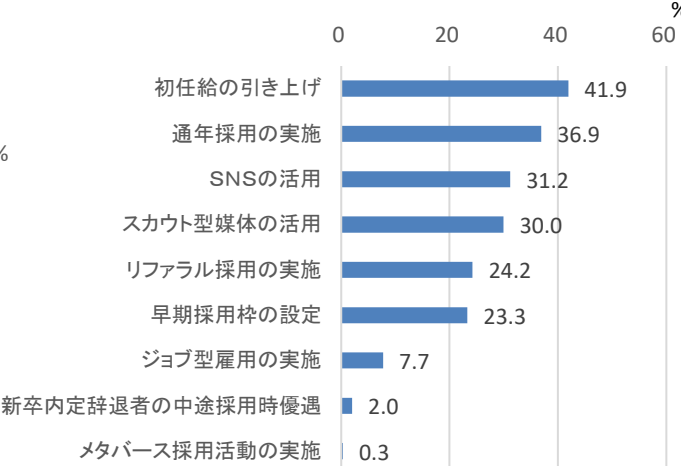
(図表15)業種別:当年度の新卒採用活動の印象

	大変楽になった	やや楽になった	変わらない	やや厳しくなった	大変厳しくなった
製造業	1.2	1.2	23.5	29.6	33.3
建設業	0.0	2.5	27.5	17.5	47.5
卸売・小売業	0.0	0.0	20.0	24.4	53.3
サービス業	0.9	3.7	17.6	43.5	32.4
その他	0.0	0.0	43.8	18.8	31.3

(図表16)オンラインの活用状況



(図表17)最近話題の取組みの実施状況(n=296~298)

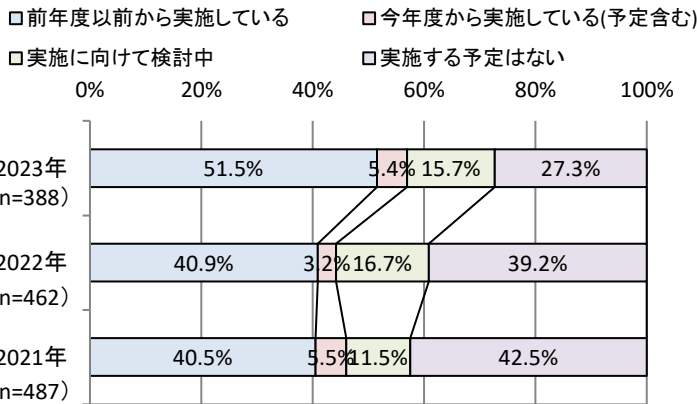


#### IV. インターンシップの実施状況

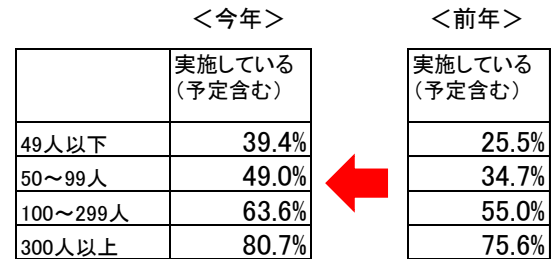
##### <TOPICS>

- ・インターンシップの実施率は57%で、前年を13ポイント上回っている(図表18)。全ての従業員規模の企業で実施率が前年を上回っている(図表19)。
- ・インターンシップ参加学生数は「減った」企業の割合が41%と最も多く、前年よりも19ポイント上回っている(図表20)。
- ・夏のインターンシップに参加した学生との接触状況については、「選考の案内をした」企業が41%と最も多い。「とくに接触していない」企業の割合は26%となっている(図表22)。
- ・インターンシップ実施企業で今年度の内定者の中にインターンシップ参加者がいる割合は61%で前年を7ポイント上回っている(図表21)。「卸売・小売業」のみその割合が5割を下回り、前年よりも17ポイント減少している(図表22)。
- ・今年度12月～2月のインターンシップの実施手段は、「対面で実施」すると回答した企業が64%と最も多く、前年数値を10ポイント上回っている(図表23)。

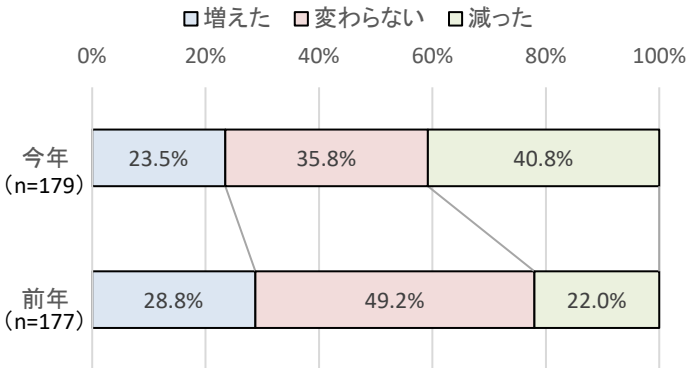
(図表18) インターンシップの実施状況



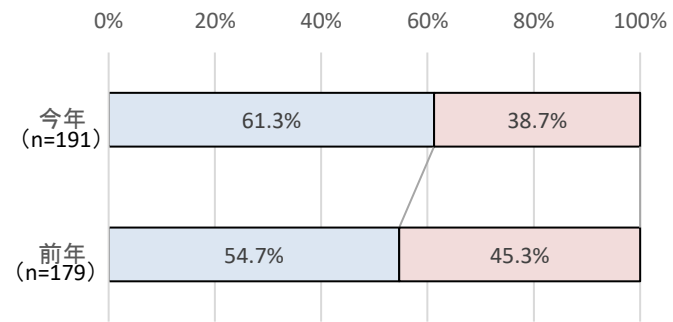
(図表19) 従業員規模別: インターンシップの実施状況



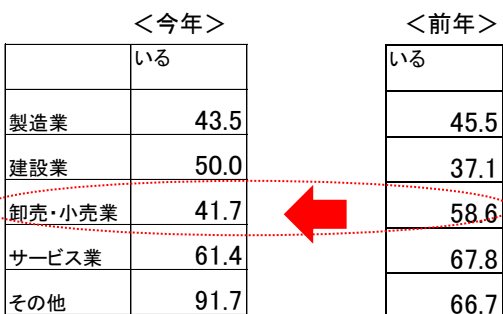
(図表20) インターンシップ参加学生数の前年比較



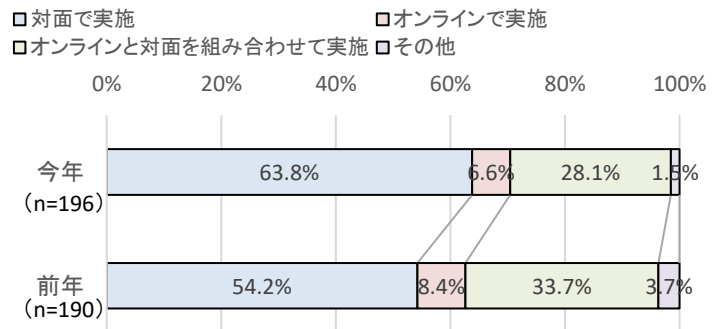
(図表21) インターンシップ実施企業での内定者におけるインターンシップ参加者の有無



(図表22) 業種別: インターンシップ実施企業での内定者におけるインターンシップ参加者の有無



(図表23) 今年度12月～2月に実施するインターンシップの実施手段



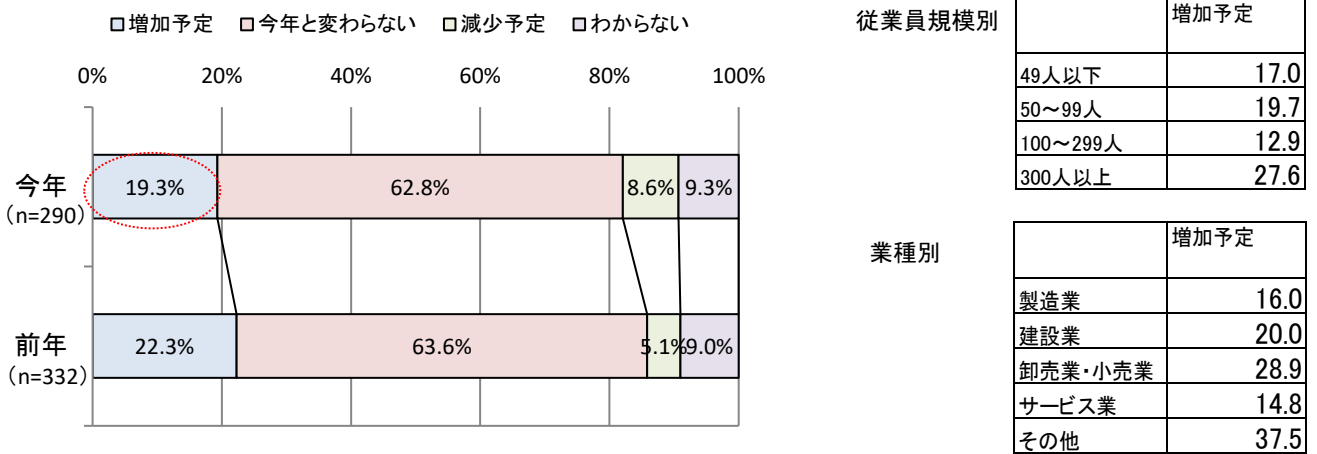


## V. 次年度の新卒採用活動

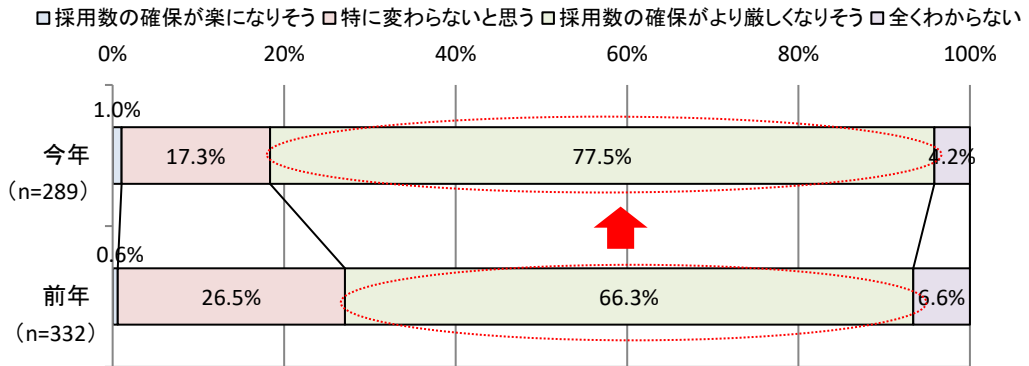
### <TOPICS>

- ・次年度の採用予定人数は、「今年と変わらない」が63%と最も多い。前年調査と比較すると、「増加予定」の企業の割合が3ポイント減少している。「増加予定」の企業を従業員規模別に見ると「300人以上」の企業、業種別では「卸売・小売業」が3割弱で他の企業よりも多い割合となっている(図表24)。
- ・次年度の採用活動状況の見通しは、「採用数の確保が厳しくなりそう」な企業が78%で、前年調査を11ポイント上回っている(図表25)。従業員規模に比例してその割合は高くなっており、従業員「300人以上」の企業では9割弱となっている(図表26)。

(図表24) 次年度の新卒採用予定人数



(図表25) 次年度の採用活動状況の見通し



(図表26) 従業員規模別：次年度の採用活動状況の見通し

	採用人数の確保が楽になりそう	特に変わらないと思う	採用数の確保がより厳しくなりそう	全くわからない
49人以下	1.9	26.4	69.8	11.3
50～99人	0.0	22.7	70.7	7.5
100～299人	1.2	14.1	80.0	4.3
300人以上	1.3	9.2	86.8	3.8

%